



YUKA 大阪油化工業株式会社

2022年**9**月期
決算説明資料

2022年11月10日

東証スタンダード：4124

目次

- | | |
|-----------------|------|
| 1. 2022年9月期決算概要 | P.03 |
| 2. 2023年9月期業績予想 | P.12 |
| 3. 【ご参考】当社について | P.18 |



1. 2022年9月期決算概要

決算ハイライト

連結	売上高	営業利益
	1,180百万円	137百万円
	前期比3.0%減	前期比16.6%増
	予想比0.0%増	予想比14.6%増

- ◆ 売上高の金額に関して、会計基準の変更に伴い、2022年9月期以降は有償支給材料分を除いた純額を用いることとなったため、前期比では3.0%の減収となっております。
- ◆ なお、前期（2021年9月期）について当該会計基準を適用して前期比を算出した場合、好調な受託蒸留事業がけん引し、**4.1%（※）の増収**となります。
- ◆ 営業利益については、会計基準の変更による影響はなく、実質的に増収だったことにより16.6%の増益となっております。

※ 2021年9月期 連結売上高実績（会計基準変更後）：1,133百万円との比較により算出

決算ハイライト②（事業セグメント別）

受託蒸留事業

売上高

1,113百万円

前期比4.3%増

プラント事業

売上高

129百万円（※）

前期比12.7%減

※ プラント事業セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高62百万円を含んでおります。

- ◆ 受託蒸留事業については、電子材料向け案件を中心に多様な蒸留案件の引き合いが増加したことにより、4.3%増収、プラント事業については、部品・材料不足による納期の遅れ等により、12.7%減収となっております。
- ◆ 前期（2021年9月期）の各事業について、当該会計基準を適用して前期比を算出した場合、受託蒸留事業については**13.0%（※）の増収**となります。
（プラント事業に与える影響はありません。）

※ 2021年9月期 受託蒸留事業売上高実績（会計基準変更後）：985百万円との比較により算出

受託蒸留事業 経営成績

- ◆ 受託蒸留事業売上高については、電子材料向け案件を中心に多様な蒸留案件の引き合いが増加したことにより前期比増収で着地しております。

(単位：百万円)	2021年9月期	2022年9月期	前期比(%)
受託蒸留事業売上高	1,067	1,113	+4.3%
研究開発支援(※①)売上高	217	218	+0.8%
受託加工(※②)売上高	850	894	+5.2%

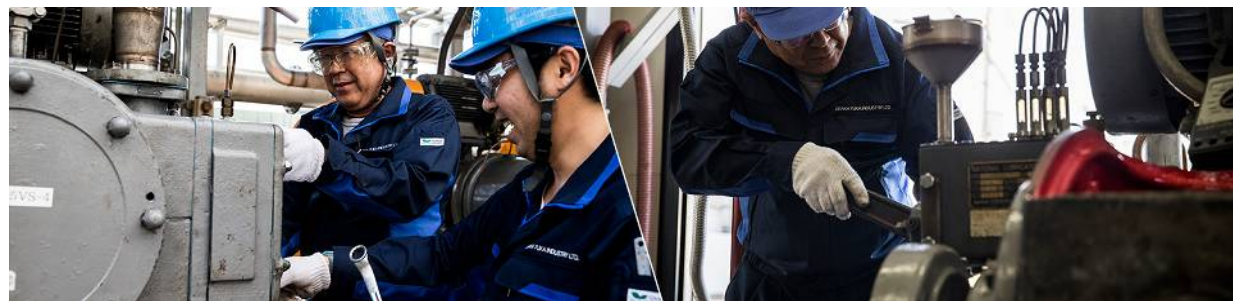
※① 研究開発支援：顧客の研究開発部門の支援を行うサービスをいう。

※② 受託加工：中/大型の蒸留装置による製造規模の蒸留及びそれに付随するサービスをいう。

プラント事業 経営成績

- ◆ プラント事業売上高については、部品・材料不足による納期の遅れ等により前期比減収で着地しております。

(単位：百万円)	2021年9月期	2022年9月期	前期比(%)
プラント事業売上高	148	129	△12.7%



連結損益計算書

- ◆ 売上高に関して、前ページでご説明のとおりです。
- ◆ 売上原価に関しては、会計基準の変更に伴い有償支給材料分を除いているため、減少。販管費に関しては、将来を見据えた人材投資を着実に行いつつ、経費の抑制に努めたことで前期比微増に留まる。

(単位：百万円)	2021年9月期	構成比 (%)	2022年9月期	構成比 (%)	増減率 (%)
売上高	1,216	100.0	1,180	100.0	▲3.0
売上原価	696	57.3	640	54.3	▲8.0
売上総利益	519	42.7	539	45.7	3.8
販売費及び一般管理費	401	33.0	401	34.1	0.1
営業利益	117	9.7	137	11.6	16.6
経常利益	126	10.4	140	11.9	10.7
親会社株主に帰属する当期純利益	80	6.6	88	7.5	9.7
1株当たり当期純利益 (円)	76.25	-	83.24	-	-

連結貸借対照表

- ◆ 利益の増加に伴い現金及び預金が増加したことにより、流動資産が増加。
- ◆ 減価償却費の計上により、固定資産が減少。

(単位：百万円)	2021年9月期	2022年9月期	増減
流動資産	974	1,072	98
現金預金	715	801	85
売上債権	116	119	3
棚卸資産	119	119	▲0
その他	22	32	9
固定資産	1,050	985	▲64
総資産	2,024	2,058	33
流動負債	265	230	▲35
固定負債	15	14	▲1
純資産	1,743	1,813	69
負債純資産合計	2,024	2,058	33
自己資本比率	86.1%	88.1%	+2.0pt.

連結キャッシュ・フロー計算書

- ◆ 前期はM&Aにより投資CFが支出増加となったため、フリーCFはマイナス。
- ◆ 当期は一過性要因が生じていないため、フリーCFはプラスに転じる。

(単位：百万円)	2021年9月期	2022年9月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	174	218	43
税金等調整前当期純利益	126	140	13
減価償却費	128	141	12
その他	▲ 80	▲ 62	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 316	▲ 106	209
有形固定資産の取得による支出	▲ 228	▲ 106	121
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	▲ 83	-	83
その他	▲ 4	0	4
フリーキャッシュ・フロー	▲ 141	112	253
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 26	▲ 26	▲ 0
自己株式の取得による支出	-	-	-
配当金の支払額	▲ 26	▲ 26	▲ 0
現金及び現金同等物の期末残高	715	801	85

新規受注件数等の推移

- ◆ お問い合わせ件数は、前期比で減少したものの、顧客からの実施に向けた具体的なご相談が増加したことに伴い、新規受注件数は前年並みを維持。
- ◆ お問い合わせから新規受注に至った成約率は約40%。
- ◆ なお、当社の取引先は約100社。
うち、国内外上場企業（グループ会社を含む）が約90%を占める。

(単位：件)	2020/9期	2021/9期	2022/9期
お問い合わせ件数	153	147	123
新規受注件数	47	55	49



2. 2023年9月期業績予想

通期連結業績予想

連結

売上高	1,250百万円 前期比5.9%増	営業利益	150百万円 前期比9.1%増
-----	----------------------	------	--------------------

- ◆ 売上高については、受託蒸留事業は堅調を維持、プラント事業は自社オリジナル製品の拡販により、前期比5.9%の増収を見込む。
- ◆ 営業利益については、燃料費の高騰による製造経費の増加、将来を見据えた人材投資による人件費の増加は生じるものの、増収要因及び費用抑制に努め、9.1%の増益を見込む。

通期連結業績予想（事業セグメント別）

受託蒸留事業
売上高

1,100百万円
前期比1.2%減

プラント事業
売上高

150百万円
前期比15.8%増

- ◆ 受託蒸留事業の売上高予想に関する内訳は、
研究開発支援 売上高250百万円（前期実績：218百万円）
受託加工 売上高850百万円（前期実績：894百万円）
前期比微減となるものの、引き続き堅調な推移を見込む。
- ◆ プラント事業については、前期停滞の原因となった部品・材料不足による納期の遅れ等は完全に解消していないものの、特許申請を終えた自社オリジナルろ過装置（後述）の販売拡大により、増収を見込む。

株主還元

【配当政策】

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主各位に対する適切な利益還元を実施していくことを基本方針としております。

	2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期 (予想)
1株当たり配当金	25.0円	25.0円	25.0円
配当性向	32.8%	30.0%	26.5%

- ◆ 2022年9月期における配当については、前期と同額の1株当たり25円を実施予定。
- ◆ 2023年9月期における配当についても、1株当たり25円を見込む。

【受託蒸留事業_戦略】パッケージサービス提供予定

- ◆ 蒸留案件のご依頼について、当社ホームページからお気軽にお問合せいただき、蒸留サービスを利用いただけるパッケージサービスを2023年春より提供開始予定としております。
- ◆ 「契約内容・蒸留設備の運転条件・分析条件」をパッケージ化することでお客様はプランを選択し、材料を支給いただければ成果物が納品されます。

受託蒸留の パッケージ化



当社HP



蒸留プラン選択



契約・注文



納品及び報告

オンラインの活用により時間短縮・コスト低減を実現

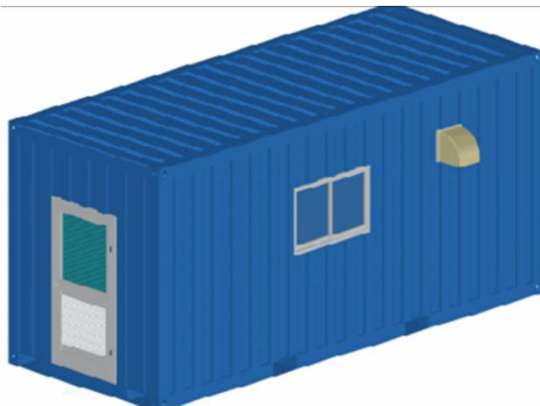
【プラント事業_戦略】ろ過装置の販路拡大

- ◆ ろ過装置「オールイン」「コンテナイン」を開発、販路拡大を目指します。



【オールイン】：オーダーメイドの省スペースろ過装置

- ・ 塗装工場、メッキ工場、半導体工場など様々な排水に対応
- ・ 顧客の施設に合わせた設計・製造が可能
- ・ メンテナンスがしやすい装置構造



【コンテナイン】：ISO規格コンテナサイズのろ過装置

- ・ オールインの特性を活かしつつ、ISO規格コンテナサイズにパッケージ化
- ・ 量産化が可能であり、納入から稼働までのリードタイムの大幅な短縮が可能
- ・ 設置にあたり、建屋工事を必要としない

3. 【ご参考】 当社について



大阪油化工業株式会社



大阪油化工業株式会社

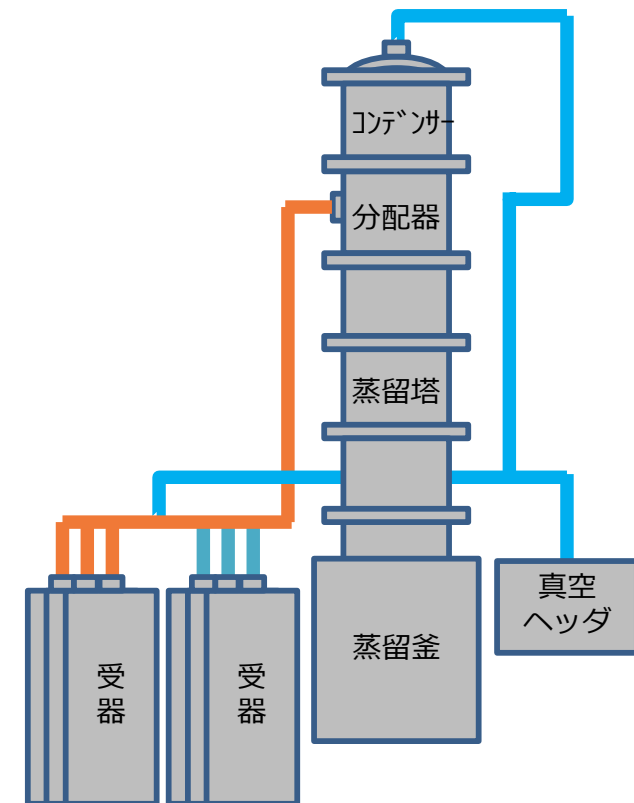


大阪油化工業株式会社

当社概要

- ◆ 社名 大阪油化工業株式会社
- ◆ 代表者 代表取締役社長 堀田哲平
- ◆ 創業 1949年11月
- ◆ 設立 1962年 2月
- ◆ 資本金 346百万円
- ◆ 決算期 9月末
- ◆ 従業員数 グループ計60名
(2022年9月末時点)

『精密蒸留受託のパイオニア』



事業所及びグループ会社

大阪油化工業株式会社

- ◆ 本社 大阪府枚方市新町 1 - 12 - 1 太陽生命枚方ビル
- ◆ 枚方工場 大阪府枚方市春日西町 2 - 27 - 33
- ◆ 東京営業所 東京都中央区新川 1 - 3 - 21 BIZ SMART茅場町

ユカエンジニアリング株式会社 (2019年10月設立)

- ◆ 所在地 大阪府枚方市春日西町 2 - 27 - 33
- ◆ 事業内容 蒸留設備の設計・施工・販売・メンテナンス

株式会社カイコー (2014年7月設立、2021年1月子会社化)

- ◆ 所在地 埼玉県さいたま市南区文蔵 1 - 8 - 8
- ◆ 事業内容 工場排水ろ過装置の設計、製造、据付、販売等

当社の事業について

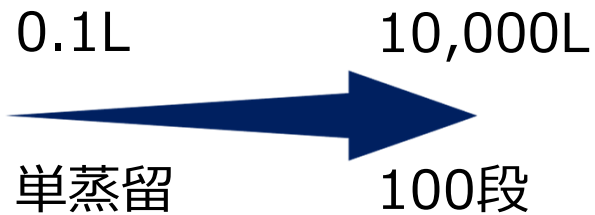
- ◆ 当社は、化学物質のわずかな蒸発温度の差を利用して、混合物から目的とする物質を分離・精製する「精密蒸留」を主な事業として行っております。

小スケール試験から生産まで一括サポート



研究、受託、設備導入まで一貫で支援

多種多様な装置ラインナップ



30基以上の設備を保有
素材：ガラス、テフロン、SUS

24時間体制



開発から生産までを土日祝祭日を含め
24時間体制で実施

当社の実績（強み）

対応実績

1949年創業、70年以上にわたり化成品の高純度精製を専門に行う

「精密蒸留分野に特化したリーディングカンパニー」

これまでに、試験品を含め3,000品目以上の物質に対応、

他社が断念したプロジェクトを請け負うことも多い「精密蒸留の駆け込み寺」

蒸留精製プロセスの受託にとどまらず、

蒸留精製による研究開発の支援まで自社で対応可能（高品質・高純度・高付加価値）

取扱い分野

電子材料

液晶材料

光学材料

機械

医薬品

繊維

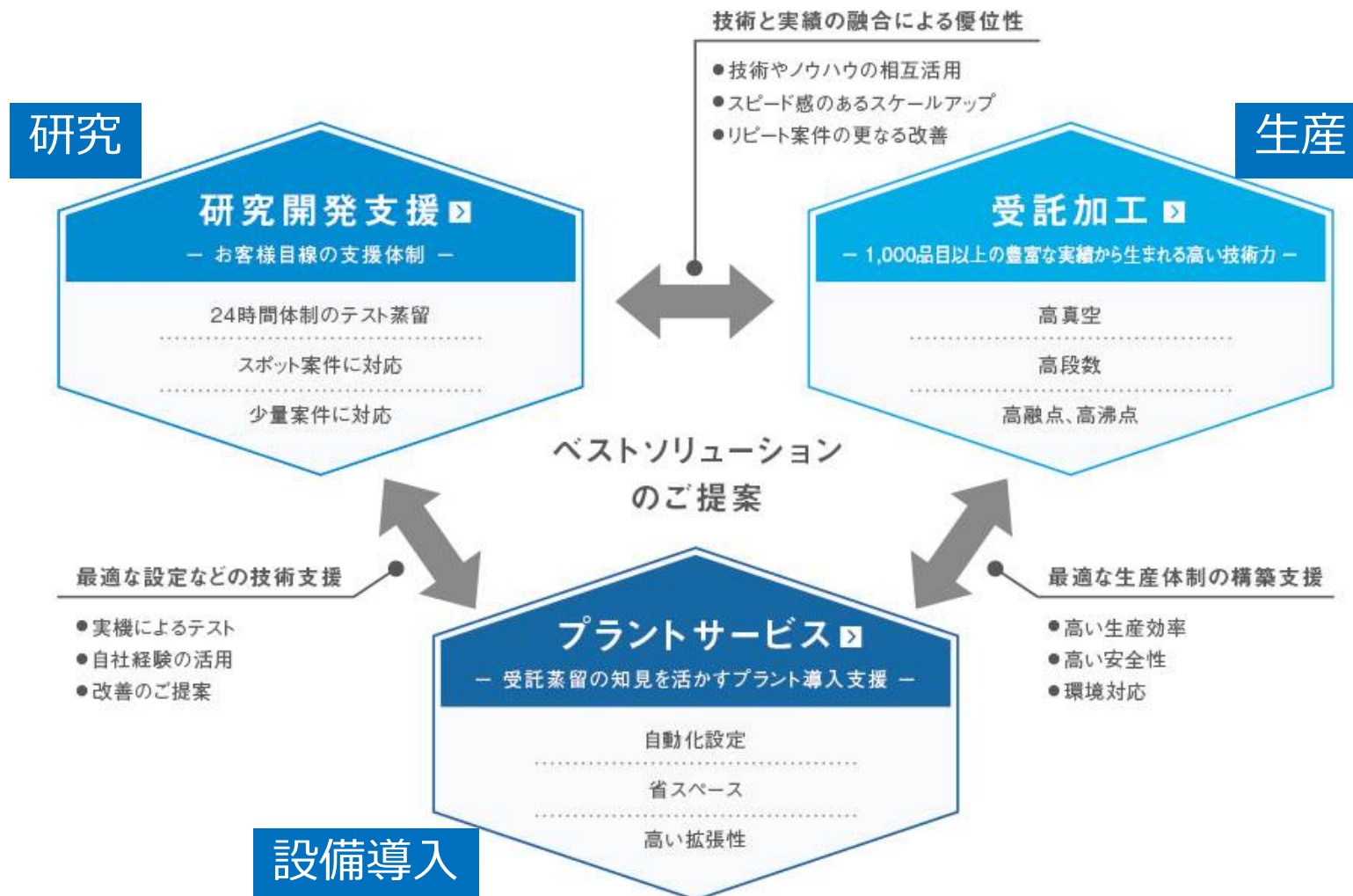
特殊素材

食品

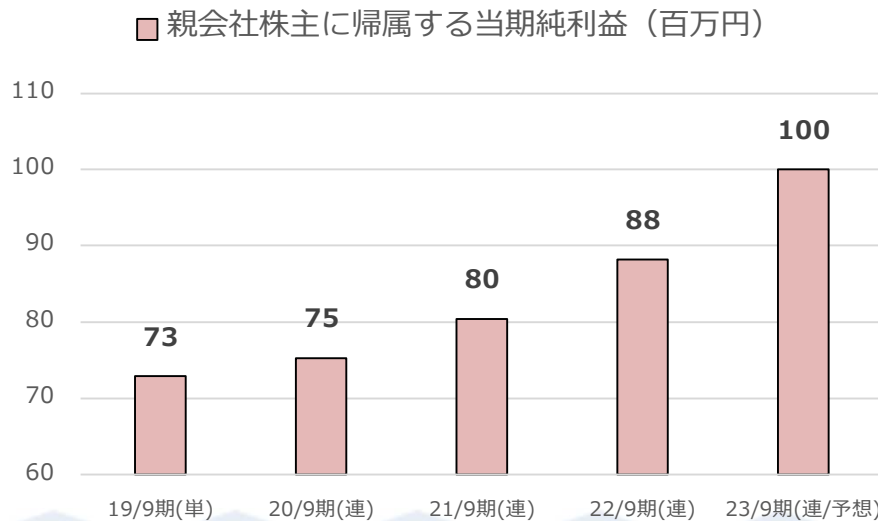
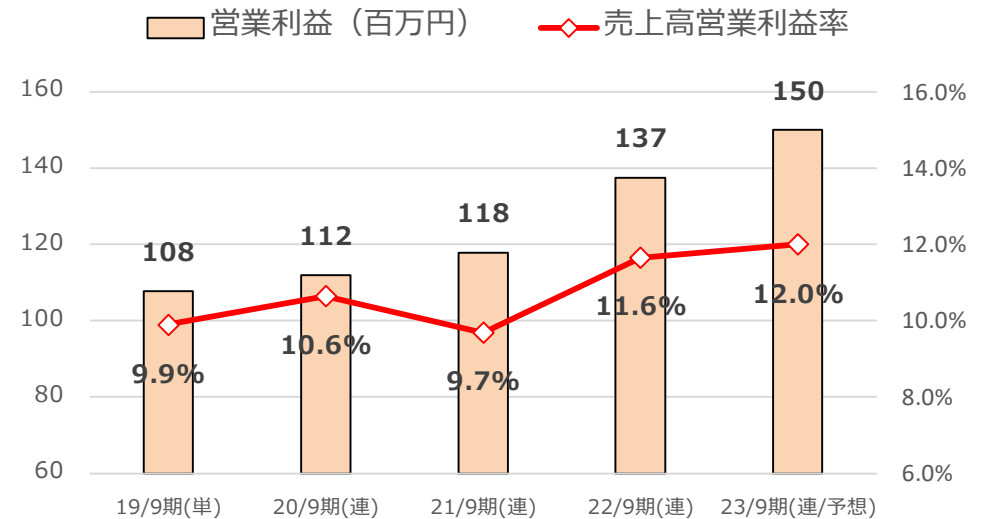
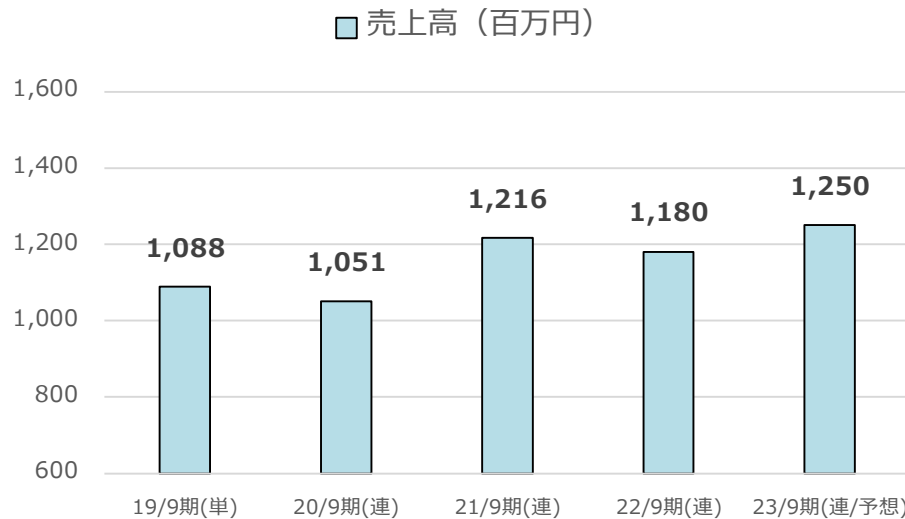
農業

事業の流れ

当社では、精密蒸留分野において「研究・生産・設備導入」を一気通貫で提供することが可能。



業績の推移



(百万円)	2020/9	2021/9	2022/9
純資産額	1,683	1,743	1,813
総資産額	1,937	2,024	2,058
自己資本比率	86.9%	86.1%	88.1%

直近3年の株価・出来高の推移

株価・出来高の推移 (2019年10月1日～2022年9月30日)



SDGs 基本方針

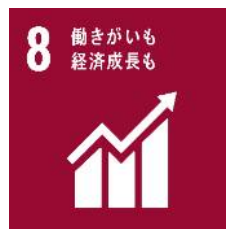
自社の蒸留等の精製技術を通して、社会の様々な課題の解決を目指し、世の中に貢献する取り組みを実践する。



地球環境にとって、
負荷低減につながる生産や開発を行う。



顧客にとって、
取引を継続したいサービスを提供する。



社員にとって、
働き続けたい職場とする。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



YUKA 大阪油化工業株式会社

〈お問い合わせ先〉

業務部 経営企画チーム

TEL : 072-861-5322

MAIL : cp@osaka-yuka.co.jp

URL : <https://www.osaka-yuka.co.jp/>

〈本資料取扱上の注意点〉

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動する可能性があります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載している将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

また、本資料は当社をご理解いただくために作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定はご自身のご判断において行われるようお願いいたします。